

対人支援点描 (20)

「臨床宗教師の活動と北海道臨床宗教師会の立ち上げ」

小林 茂 (臨床心理士/牧師)

はじめに.

対人支援点描 (10) で臨床宗教師の働きについて述べた。これまで北海道東北臨床宗教会の活動があったところから、2011 年 11 月の総会を経て東北臨床宗教師会と北海道臨床宗教会へと地方組織が分離発展することになった。こうして、筆者自身が所属する北海道臨床宗教師会が立ち上がったことから、改めてこのテーマを扱いたいと考えた。

1. 臨床宗教師活動の発端

宮城県には、もともと宗教法人を有する団体が「宮城県宗教法人連絡協議会」という団体を作り、特定の宗教の集まりとは別に宗教宗旨を超えて協力しあっていた。こうした集まりは、全国的にみれば稀な活動であった。しかし、2011 年 3 月に起こった東日本大震災発生という衝撃的な出来事は、一般の人々の想いは言うまでもなく、日ごろから生死の問題を扱う宗教者にも何かしらの行動を起こすことが求められたのだった。宗教的な表現をすれば行動をとるように“示された”といえる。だが、宗教関係者中には、自社寺院が流され、倒壊

し、檀家信徒が亡くなり、宗教者自身の縁者も亡くなり、という様々な痛手を受けながら、宗教者としての為すべき務めが問われ、活動に参加した人もあった。

こうして、被災を受けた当地の当事者として宗教的な立場を超え、被災者の心のケアのために協力して行う活動が模索されたのである。

その活動は、同年 5 月に、上記協議会に所属する宗教関係者が相談員となり「心の相談室」という電話相談という形で具体化した。

2012 年には、「心の相談室」事務局を担った東北大学宗教学講座教授の鈴木岩弓氏の協力のもと、東北大学大学院文学研究科実践宗教学寄付講座が中心となり、臨床宗教師の養成が始まることとなった。

1. 臨床宗教師の名称について

臨床宗教師という名称について、その名称を提案したのは岡部 健医師による。岡部医師は、緩和ケア・在宅による終末期医療を実践していた岡部医院の医院長の職にあったが、日本においても欧米圏のチャプレンのように、寺院以外の場所で終末期

患者に寄り添う宗教者の存在が必要との想いをもっていったという。だが、周知のとおりであるが、日本にも既にキリスト教系の病院・大学にはチャプレンがおり、仏教系の病院にもビハーラ僧といった人が活躍している。しかし、筆者が察するには、こうしたチャプレン・ビハーラ僧は、特定の宗教の信徒のためのものではないという活動の理念とは裏腹に、キリスト教や仏教の立場にない人からすれば、どこか壁を感じさせやすく、安心してユーザー（利用者）になれないものがある。また、牧師・神父のチャプレンに比べて僧侶が病棟に出入りすると“お迎えが来たと思われる”“縁起が悪い”“まだ早い”と敬遠されることも多いと聞く（臨床宗教師活動の仲間の僧侶らからの談）。このようなことなどがあると考えられる。

しかし、岡部氏の名称への想いの一番の理由は、日本社会における公共性の問題があったといえる。

事実、東関東大震災で身元不明のご遺体・引き取り手を待つご遺体の宗教的な手当てには行政の方も含めて扱いの難しいものであった。というのは、公的な場所において特定の宗教宗派の活動が認められないためである。実際、宮城県においては、この問題の落としどころとして宮城県宗教法人連絡協議会として葬儀を行ったという話である。

同じような事柄として、宗教者が、公的な医療空間・行政の空間において、中立的な立場でケアに携わるためには明確に宗教者でありつつも中立的で公に受け入れられる肩書が必要であったといえる。

このような意味で、「臨床宗教師」という名称は適切なものであると考えられる。

2. 北海道臨床宗教師会の立ち上げ

北海道臨床宗教師会の立ち上げの直接のきっかけは、2018年9月に起こった北海道胆振東部地震の出来事であった。ちょうど、北海道東北臨床宗教師会、臨床宗教師の活動のきっかけが地震という災害であったことを思うと偶然であっても、災害が命の問題を喚起する大きな出来事であると考えざるを得ない。

それ以前も、すでに北海道には片手の指の数ほどの臨床宗教師が在籍しており、東北と圏域を一つにして活動を担ってきた。しかし、北海道で起こった地震は、北海道の一地域に影響を与えた地震ではなく、日本初のブラックアウトを引き起こし、北海道全体に影響を与えるものとなった。（まったくの個人的なことであるが、第1回目の公認心理師試験と災害が重なり、12月の追試と散々な目に遭った。また筆者は被災地と同じ圏域に住む受験者でもあった。）

こうした北海道全体に与えた地震は、道内の臨床宗教師会の会員が機動力を持って自ら活動する現実的な必要を迫るものとなった。同時に、被災地におもむいた北海道在住の臨床宗教師たちが被災者から北海道の活動拠点や連絡先などが問われることがあり、会の窓口が道外にあることなど利用者との距離の遠さが意識されるようになった。

結果として、北海道内の臨床宗教師の人数自体は少数（5人ほど）であるのだが、地元で責任を持ち、利用者の利便のためにも北海道臨床宗教師会という会の発展独立、立ち上げがすすめられることになったのである。

3. まとめ～今後の課題

北海道臨床宗教師会が正式に立ち上がった。しかし、これは始まりであって目標ではない。

今後は設立総会、継続研修の開催、実際の活動、広報と実務に要する準備も見過ごせない。

北海道に団体の所在地と窓口を置くことにより、これから北海道に公のものとして臨床宗教師の活動が定着していくようにしていく必要が求められる。また、何よりも臨床という言葉にふさわしく、求められお役に立てる活動と臨床宗教師を結び付けて人々の安寧のために信頼置かれる活動をする必要がある。そのためにも、臨床と研修を重ね、倫理を守りながら質を高めていくことが求められる。

折に触れて、活動についての報告・考察をまとめたい。

北海道臨床宗教師会事務局

所在地：

〒069-8555

北海道江別市文京台11番地

札幌学院大学 小林 茂研究室内